

みなのぶ
糠部の大地によりみがえる中世南部氏の城塞都市

南部藩発祥の地「南部町」

南部藩発祥の地を舞台とした、数多くの伝承は幾年もの時を歩み、今も誇り高く燦然と輝いている

南部町は、その名に面影を残すように、南部藩発祥の地として古くから発達してきた歴史の町です。

初代南部光行からはじまる中世南部氏の奥州入部時期については定かではありませんが、鎌倉時代の末頃までには北条氏の有力家臣として奥州に入部していた説が有力です。室町時代になると三戸南部氏は現在の南部町の聖寿寺館を中心として糠部を治め、津軽や岩手県中部・秋田県鹿角地方へも勢力を伸ばしていきます。聖寿寺館からは当時の南部氏の権威や都との交流を象徴するような、東北最大の掘立柱建物跡が確認され、貴重な金箔土器や高級陶磁器が出土しています。

三戸南部氏は戦国時代から江戸時代初期にかけて、南への領土拡張に伴い、聖寿寺館(南部町)から三戸城(三戸町)、さらに福岡城(三戸市)へと移り、最終的には盛岡城(盛岡市)を築いて居城としました。江戸時代に入っても南部町は祖先の重要な土地と認識され、聖寿寺館に隣接する三光寺境内には盛岡藩初代藩主(二十六代)信直夫妻の墓石(県重宝)、盛岡藩二代藩主(二十七代)利直霊屋(眞重玉)、そして二十七代利直四男の利康霊屋(国重要文化財)が建立されました。



聖寿寺館跡航空写真

貴重な遺物や遺構も出土

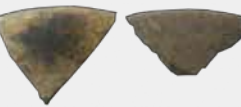
種類も豊富で日用品、武具、宗教用具、茶道や香道の道具、化粧道具、文具など、南部氏本宗家の物心両面の豊かさがかがえます。

むかいづるせいどうせいとうそうく
向鶴青銅製刀装具 平成26年出土



南部氏の家紋「向鶴」が刻まれた最古の製品。目貫と呼ばれる刀の柄に施された装飾品と考えられます。

きんぱくどき
金箔土器 平成26年出土



京都産の金箔土器。内外面に黒漆が塗られその上から金箔が貼られている。南部氏の都との交流を物語る逸品です。

こくいんつさとうしき
中世アイヌの刻印付陶磁器 平成29年出土



中国の明時代の染付皿で底に×印が刻まれています。城館内部にアイヌの方が出入りしていたことを示す証拠です。

中世南部氏の中心的居館

しょうじゅじ たてあと
聖寿寺館跡

南部町正寿寺集落の南西、名久井岳を望む馬淵川沿いに位置します。北東北最大の中世武士団であった、申斐源氏の流れをくむ南部氏は、室町時代から戦国時代にこの地を本拠地としました。天文8年(1539)に家臣赤沼備中の放火により多くの記録や宝物を失いました。平成5年からの発掘調査により、貴重な遺物や遺構が見つかりました。平成16年9月30日には、発掘や縄張調査等の成果と、その歴史的重要性が認められ、国史跡に指定されました。



大型掘立柱建物群

平成27年～29年確認

城館からは室町・戦国期の複数の時期の中心建物跡が確認されていますが、中でも赤い線の建物Bは南北18間×東西21間で東北最大規模です。



史跡聖寿寺館跡プロモーション動画 町HPや動画サイトYouTubeで公開中



県重宝「南部信直夫妻の墓石」

史跡聖寿寺館跡案内所

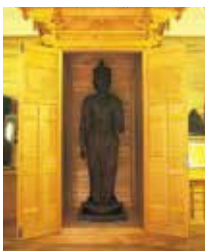
南部氏の居館 国史跡「聖寿寺館跡」を紹介するためのガイダンス施設。城館から発掘された当時の食器や茶器、武具、食べ物などの出土品の一部が展示されている。

INFORMATION

- TEL 0179-23-4711
- 所在地 南部町大字小向字正寿寺81-2
- 定休日 12月29日～1月3日
- 開所時間 午前9時～午後4時30分
- 利用料金 聖寿寺館跡・霊屋見学者は無料



県重宝「南部利直霊屋」



県内最古仏といわれる 長谷十一面観音立像

南部氏の歴史

- 文治5年(1189) 初代南部光行が源頼朝軍として平泉に出陣。奥州藤原氏滅亡
- 暦仁元年(1208) 鎌倉幕府四代将軍藤原頼経に従い、二代南部実光が上洛
- 弘長6年(1266) 三代南部次郎(時実)が北条時頼の臨終の場に付き添う
- 弘安8年(1266) 四代南部政光が霜月騒動で安達泰盛とともに自害
- 元弘3年(1333) 南部師行・政長兄弟が陸奥国に入部
- 1400年代前半 この頃聖寿寺館が築かれる
- 応永18年(1411) 十三代南部守行が秋田仙北郡刈野で秋田鹿季に大勝(秋田合戦)
- 応永25年(1418) 十三代守行が秋田鹿季に大勝(秋田合戦)
- 慶長2年(1442) 十四代南部義政が十三湊安藤氏を攻め、蝦夷地に敗走させる
- 天文8年(1539) 天文8年(1539) 天竺(天竺) 二十四代晴政が家臣の赤沼備中聖寿寺館を焼かれる。室町幕府十二代将軍義晴より晴の字をもらう
- その後、三戸城に居城を移す
- 天正18年(1590) 二十六代信直が小田原参陣。秀吉から所領安堵の朱印状を受ける
- 慶長4年(1599) 二十六代信直死去

国指定重要文化財 南部利康霊屋



この霊屋は、寛永9年(1632)申の年に南部27代太守利直公が、彦八郎利康の死を悼んで創建されたものです。江戸時代初期の豪華絢爛な桃山建築の様式が取り入れられ、華麗さは東北随一と賞されています。

INFORMATION

- TEL 0179-23-4711 (史跡聖寿寺館跡案内所)
- 所在地 南部町大字小向字正寿寺62-1
- 拝観時間 午前9時～午後4時
- 定休日 12月29日～1月3日
- 拝観料金 高校生以上 300円(20人以上 200円) 中学生以下 無料

